

神楽通信

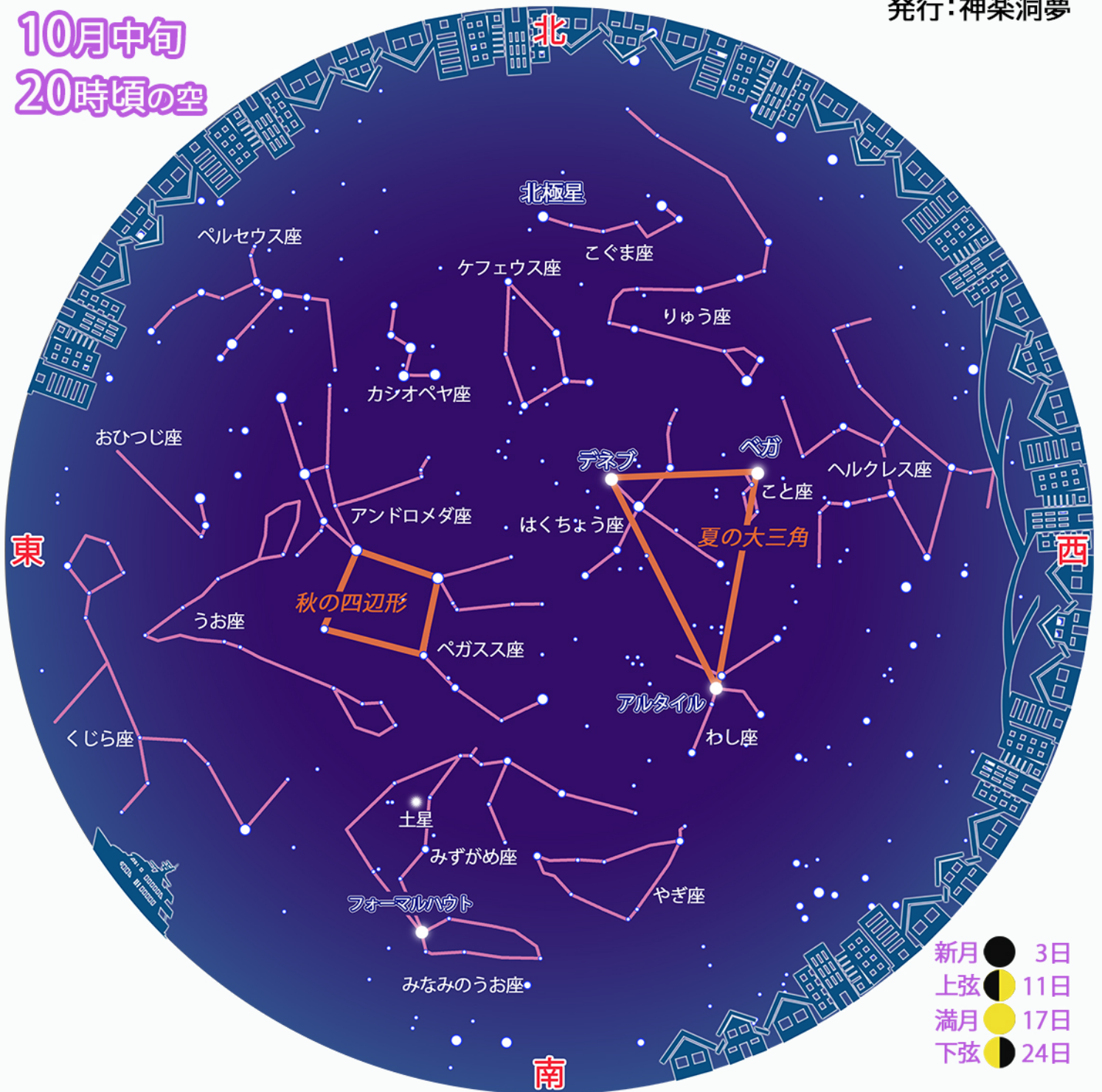
No.104

2024年

10月号

発行:神楽洞夢

10月中旬
20時頃の空



秋の日はつるべ落とし、スターウォッチングを楽しめる時間も長くなりました。
「夏の三角形」は西へ傾き、北にカシオペヤ座、頭上近くに「秋の四辺形」、南にフォーマルハウトと、星空にも秋らしさを感じます。フォーマルハウトから目を上げると、望遠鏡ではっきりと見られる「環」が有名な土星が見えます。ガリレオが耳に例えた土星の環、秋の虫の鳴き声を聞きつつ観察してみるのはいかがでしょうか。

「大彗星」なるか!?紫金山・アトラス彗星

紫金山・アトラス彗星は、2023年の初めに、中国の紫金山天文台と南アフリカのアトラス望遠鏡で発見された、新しい彗星です。

他の彗星では観測できないほど地球から離れたところで発見されたことから、肉眼でも見つけられる「大彗星」になることが期待されています。

紫金山・アトラス彗星は、9月27日に太陽に最も近づき、今月の初め頃は明け方の東の空に見え、今月の中旬からは夕方の西の空に見えるようになります。

見かけによらない彗星の行き先

彗星の見どころのひとつでもあるのが「尾」です。

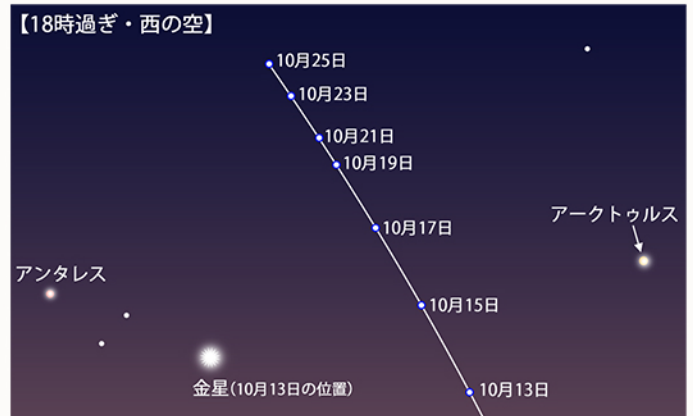
一見すると、彗星の尾は彗星が進む方向と反対側に伸びているように思えます。

しかし、彗星の進む方向と尾の伸びる向きには関係がなく、彗星は太陽からおおよそ反対方向に尾を伸ばします。

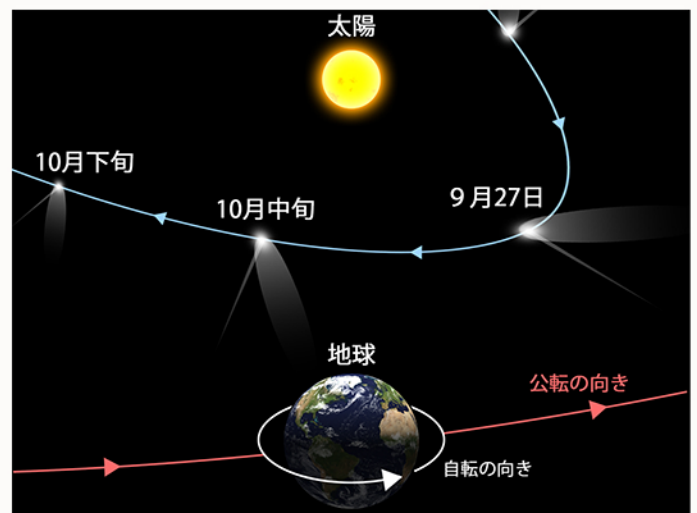
尾は大きく2種類に分けられ、ひとつは「イオンの尾（プラズマの尾）」と呼ばれる、彗星から放出されたガスや塵が太陽風によってイオンとなり流されたもので、太陽と反対方向にまっすぐ伸びて見えます。

もうひとつは、「ダストの尾」。こちらは彗星から出た塵が太陽光を受けて見える幅の広いもので、たなびいて見えることもあります。

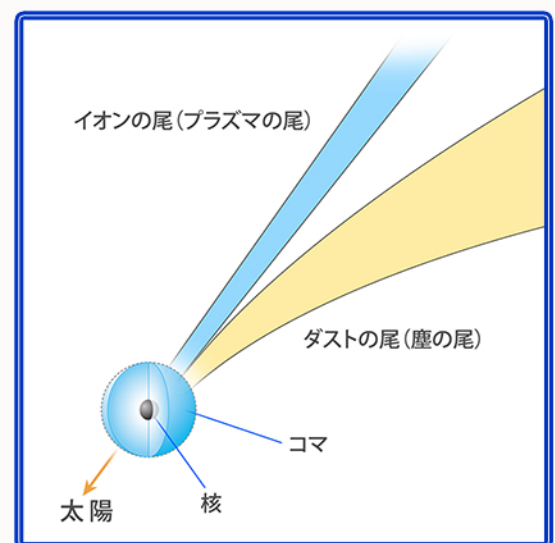
紫金山・アトラス彗星がどのような姿を見せてくれるのか、楽しみにしましょう。



10月中旬からの彗星の見え方



紫金山・アトラス彗星の軌道（イメージ）



国立天文台 天文情報センター

彗星のつくり